

事後評価シート

調査研究課題名	車いす、足腰が不安なシニア層の国内宿泊旅行拡大に関する調査研究
担当者	主任研究官 坂井志保、研究官 平田篤郎 前副所長 掛江浩一郎、前研究官 武田紘輔
① 当初目標と目標達成度	<p>本調査研究では、70歳以上の高齢者の宿泊旅行回数が、加齢に伴う身体の衰えから60代の宿泊旅行回数より減少することに注目し、身体が衰えても旅行できる環境を整えれば、シニア層の潜在的旅行市場を顕在化させ、国内宿泊旅行市場を拡大させる可能性があるとの観点から、シニア層の旅行実態や関連する取組の現状を整理・分析した上で、シニア層の宿泊旅行の拡大に向けた方策等を検討することを目標とした。</p> <p>調査研究の成果としては、市場規模の試算を提示するとともに、特に取組の促進が必要と考えられる宿泊施設に対するアンケート調査の結果等も踏まえ、シニア層の宿泊旅行の拡大に向けて4つの提言を具体的にまとめたところであり、当初の目標を達成できたものとする。</p>
② 調査研究内容の妥当性	<p>本調査研究は、特に宿泊施設における取組の促進を図ることが必要との観点から、特定非営利活動法人日本トラベルヘルパー協会、一般社団法人バリアフリー旅行ネットワーク、全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会、宿泊施設、旅行会社等の方々にご参画いただいた「車いす・足腰が不安な方の宿泊容易化に向けた意見交換会」を開催し、有識者や宿泊施設の立場等からのご助言を踏まえ、調査研究の方向性や内容等を検討した。また、バリアフリー対応や入浴介助サービスに取り組む宿泊施設等に関しては、個別にヒアリングを実施し、詳細情報の把握に努めた。</p> <p>よって、本調査研究の成果は、関連分野の有識者や先進的な取組をされている宿泊施設等の方々から幅広く意見を伺い、その内容等を反映していることから、今後、シニア層の受入に取り組む宿泊施設等の幅広い関係者において、有効な情報として提供し得るものである。</p>
③ 調査研究の仕組みの妥当性	<p>調査研究を進める過程で「車いす・足腰が不安な方の宿泊容易化に向けた意見交換会」を開催するなど、有識者等から調査研究の進め方や調査内容に関するご助言をいただいた。</p>
④ 成果と活用	<p>研究成果を当研究所のホームページで広く公表することを予定している。</p> <p>本調査研究の成果は、調査結果を踏まえ、「宿泊施設の経営者に対する受入促進に向けた広報」、「ホテル・旅館のバリアフリー化の支援措置の充実」、「入浴介助サービスの普及」、「広く一般に宿泊施設の受入情報を届ける仕組みの構築」の4つを提言としてわかりやすくまとめていることから、ホテル・旅館、旅行会社、交通機関、福祉・介護、行政等の幅広い関係者へ考え方等の共有を図るとともに、今後の取組の促進に活用し得るものである。</p>
⑤ その他	<p>調査研究内容の一部をPRI Review 59号に掲載するとともに、当研究所が主催した平成27年度研究発表会や総合政策局情報政策課が主催の交通・運輸関係調査機関等発表会においても、調査研究内容の一部について報告を行っている。</p>